

8日目 8月13日

会 場： 阪神甲子園球場

第1試合	～2回戦～																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
有田工業	1	0	0	0	1	0	1	0	0							3	6	1		
浜 田	0	0	2	0	0	3	0	0	X							5	10	1		
(投手－捕手)																				
・ (有)	塚本 － 上原																			
・ (浜)	波田→森井 － 網本																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (有)	塚本、上原																			
・ (浜)																				
(審判) [球審]	尾崎			〔一塁〕 三宅				〔二塁〕 溝内				〔三塁〕 山本								
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(有)	38	6	3	2	0	0	6	5	4	0	8	1			1	0	0	0	0	0
(浜)	34	10	4	1	0	0	4	2	3	1	5	2			1	1	0	0	0	0

「浜田、中盤の集中打で初戦突破！」

大会8日目は、都道府県予選終了後にコロナウイルス感染が確認されたチームどうしの対戦が組まれた。第1試合は佐賀県の有田工業と島根県の浜田の公立校対決となった。有田工業は春夏連続出場で、夏の佐賀県大会では5試合中3試合を1点差で勝ち上がり接戦に強い。浜田は5試合35得点の打線と足を絡めた攻撃で島根県大会を制した。試合は有田工業は右腕の塚本、浜田は左腕の波田の先発で試合は始まった。

1回表、有田工業は連打と犠打で1死2・3塁とし、内野ゴロの間に先制する。なおも2死1・2塁と得点圏に走者を進めるが後続が続かず、1点に終わる。すると、3回裏、浜田は安打と死球で無死1・2塁とし、2番重川が投手前に犠打を決めると投手が悪送球する間に同点に追いつく。更に無死1・2塁から、3番波田がセンターへの適時打を放ち逆転に成功する。

有田工業も5回表、四球と犠打などで2死3塁から、4番角田が投手強襲の適時打を放ち同点に追いつき、両者譲らない接戦となった。

試合が動いたのは6回裏、浜田は高木の2点適時打含む4・5・6番の3連打で一気に勝ち越すと、犠打と内野ゴロで2死3塁とし、9番中村のライト前に落ちるポテンヒットが適時打となり1点を追加した。有田工業も6回途中から継投した浜田2番手の森井から、7回表に2塁打の走者が内野ゴロの間に生還し1点を返したがそれ以上の反撃は出来なかった。

有田工業はエース塚本脚を攣りながらも8回を投げ抜き、5打席全て出塁し3得点挙げるなど気を吐いた。更に、犠打と内野ゴロで確実に走者を生還させる攻撃は見事だった。しかし、予選で見せた、両打ちの選手が打席の左右を変える工夫は注意され出来無かったことは残念でならない。ルール内の工夫を何でも禁止にしていたら、野球の進化を阻害する行為に他ならない。浜田も積極的に足を絡めた攻撃は島根県大会ほどできなかったが、要所で見せる集中打は目を見張るものがあった。また、高野連の計らいにより、試合日程を工夫し両校が甲子園で試合出来たことが、本当に良かった。

